

# 平成30年度実績に係る部局評価書

部局名:蛋白質研究所

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
<b>S</b>	<b>S</b>	<b>S</b>

## 【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		学生の奨学支援を積極的に行い、13,265千円(前年度比60%増)をRA、奨学生の経費として支出したこと、また、大学院への進学を希望する外国人研究生として9名の研究生を受け入れていることが評価できる。
【研究】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		教授1名が平成30年度科学技術分野の文部科学大臣表彰・科学技術賞(研究部門)を受賞したこと、医薬基盤・健康・栄養研究所との間で双方向のクロス・アポイントメント制度に関する協定を締結し、共同研究を実施したことが評価できる。
【社会貢献】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		一般に企業では保有や利用が困難な超高磁場NMR装置群、最先端クライオ電子顕微鏡群を企業研究者に開放、あるいは共同研究を通じた利用を図り、両装置群を合わせてのべ22社が利用したこと、また、39件のセミナー/ワークショップ、出前講義、研究室見学等を実施し、のべ参加者人数が平成29年度を大きく上回ったことが評価できる。
【グローバル化】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。

## 【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

<p><b>【評価コメント】</b>          常勤教員一人当たりの論文数について、研究所内だけでなく研究所外との連携により共同研究を促すなど、実績向上のための取組が評価できる。          常勤教員一人当たりの競争的資金(科研費以外)の採択金額について、外部資金の獲得額に応じて配分額が変動する仕組みを導入するなど実績向上のための取組が評価できる。</p>
--